

金子耕式の **その13** ファミリートーク

北海道と沖縄県にて好評放送中!!



■先生の権威について

私は、ラジオで親の権威の重要性についてしばしばお話しするのですが、今回は、学校の先生の権威についてお話ししたいと思います。モンスター・ペアレントということばが登場して以来、非常識な保護者による教育現場への乱暴な介入が、広く世の中の人々の知るところとなりました。もちろん、学校や先生に対する保護者の訴えのすべてが非常識なものではありませんし、

まれなケースとして、教育者としてあり得ないような人が教師をしている場合もあるでしょう。それにしても、50代の私からすれば、先生に対する尊敬の念が、今の時代は極端に低下してきていることに危機感を覚えます。多分それは、先生という職業に対する世の中の意識が大きく変わってきたからだと、私は考えます。つまり、先生の仕事を「聖職」と位置づけるのではなく、単なる「教育サービスの一つ」と見るようになってきたのでしょう。だから、そのサービスが気に食わなければ、レストランでウェイトレスに文句をつけるかのように、先生にもクレームをつけるのが当たり前に感じられるのでしょうか。私は、こうした現状をとても心配しています。子どもたちにとっては、それは大変不幸なことだと思います。家庭においては、親の立場がしっかり確立されていないと、子どもは親をバカにして、言うことを聞く耳をもたなくなり、また、奥さんが子ども

に悪く言えば、父親としての権威を失って、子どもたちはお父さんの言うことを聞かなくなるでしょう。同じように学校では、生徒に対する先生の一定の権威が必要なのです。この権威が損なわれると、せっかくの学校教育が子どもたちに伝わらないことになりかねないからです。子どもの前で、先生の権威を損ねるような言い方をするのは、できる限り控えるべきでしょう。

■学校に何を求めるか

たいていの親は、自分の子どもが通う学校に理想的な教育環境を整えて欲しいと願います。教える先生方が、みな実力があり、人格的にも優れていることを期待します。欲を言えば、一番ベテランの優秀な先生が、自分の子どもの担任に当たってくれたらと願う

こともありません。その気持ちは理解できます。でも私は、必ずしもそれが子どもの成長にとって、良いことだとは思いません。これは、自分自身の経験を通して悟ったことです。私が通った小、中、高校には、良い先生方がたくさんいました。でも、私の目から見て、中にはえこひいきをしたり、意地悪だったり、熱意がなかったりする先生方もいました。機嫌が悪いと、すぐに怒鳴る先生や、性格的にどうしても馬が合わない先生もいました。だから、先生のことはや態度に、傷つけられたり、「なにクソ!」と反発したりしたこともありました。でも、そのおかげで難しい人間関係を切り抜ける方法をた

くさん学んだし、いろいろな人とうまくやっていくための、コミュニケーションの能力も身につけることができました。しかし、もし全ての先生方が自分にとって理想的な先生だったらどうでしょうか。問題が全くないことが最善でしょうか。もし、学校が何の問題もない理想的な場所だったら子どもたちは幸せなんでしょうか。学校を卒業して社会に出たら、そこには難しい人間関係が待ち受けています。意地悪な上司や自分を良く思わない同僚だっているでしょう。そうしたら、ちよっとしたことで耐えきれずに、すぐ会社を辞めてしまいかもれません。学校は、勉強だけを教えられる場所ではなく、人間関係を学び取る場所でもあると、私は思います。

家族に贈る
とおきの話
Vol.3



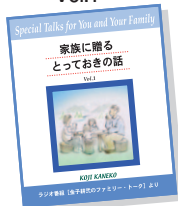
四六版変形上製本
149P
●定価 1,575 円

家族に贈る
とおきの話
Vol.2



四六版変形上製本
148P
●定価 1,575 円

家族に贈る
とおきの話
Vol.1



四六版変形上製本
151P
●定価 1,575 円

ラジオ番組「金子耕式のファミリートーク」を編集したコラム集。FFJのスタッフが元アナウンサーの金子耕氏が自らの子育て経験を交え、日本の現状とニュースに合わせたショートメッセージをお届けします。